



令和7年12月16日
総合政策局地域交通課

「交通空白」解消パイロット・プロジェクト 第6弾を発表します！

国土交通省では、「『交通空白』解消・官民連携プラットフォーム」を設置し、官民関係者の幅広い連携をもとに、全国各地において「交通空白」の解消に向けた取組を進めています。この度、同プラットフォームの取組の一つである「『交通空白』解消パイロット・プロジェクト」について、第6弾を発表いたします。

「交通空白」解消パイロット・プロジェクトは、「交通空白」解消・官民連携プラットフォームのもと、「交通空白」に係る課題を抱える自治体や交通事業者と、その解決に寄与するソリューションを持つパートナー企業等が、国土交通省や各地方運輸局の伴走のもと連携・協働することにより、全国一斉での「交通空白」解消に寄与する事業を実施するものです。

このたび、パイロット・プロジェクト第6弾として2件のプロジェクトをお知らせいたします。

なお、今後「『交通空白』解消・官民連携プラットフォーム」のイベント等において、これまでに発表した各プロジェクトの報告を実施しております。各事業の課題や成果を広く共有しながら、全国展開を推進します。

「交通空白」解消パイロット・プロジェクト

01 働き手不足に負けない「強い」事業基盤の構築

① 公共ライドシェアの運行管理の共同化 ～多様な運行形式に対応

05 喫緊の特定課題への対応

② 夜間の足の確保 ～データによる夜間移動需要の把握、夜間商業・観光資源との連携

※ プロジェクトの詳細については、別紙資料に記載しております。

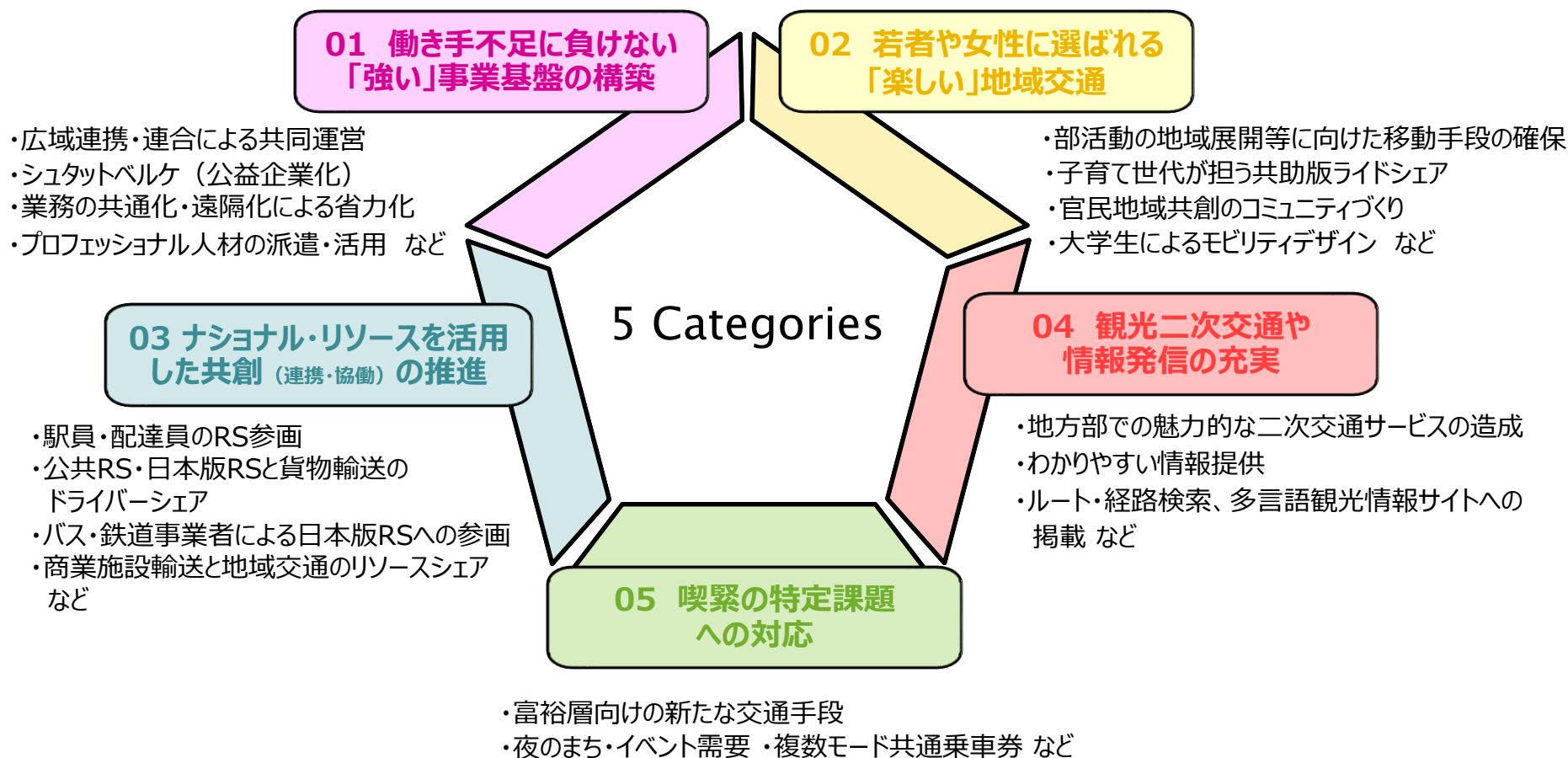
<問合せ先>

総合政策局 地域交通課 菊地、春見、阿南、阿部

電話 03-5253-8111（内線 54-724、54-827）、03-5253-8987（直通）

「交通空白」解消に向けたパイロット・プロジェクトの展開

- 加速する人口減少・働き手不足の下において、地方の「暮らし」と「安全」を守るため、従来の発想を超える**持続可能な地域交通の「新しいカタチ」を官民で創出**する。
- 「交通空白」解消・官民連携プラットフォーム（会員数：1,342（R7.11.30時点））のもと、**2030年頃を見据え、全国展開・実装が期待される新しい仕組み（運営、技術・サービス、システム、人材等）の構築**に取り組む。
- **令和7年度は、以下の5分野を重点テーマに実証事業（順次公表）を展開。**



Area R7年度 実証地域

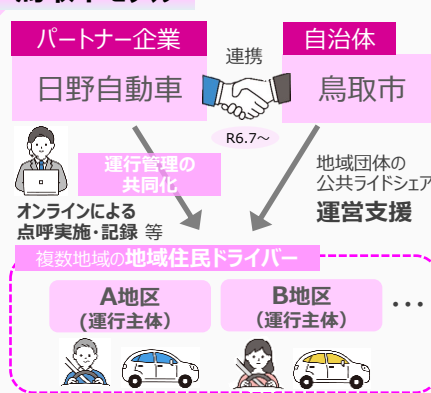
鳥取県鳥取市
あさご
兵庫県朝来市
わけ
岡山県和気町

※既に実装されている地域を含む

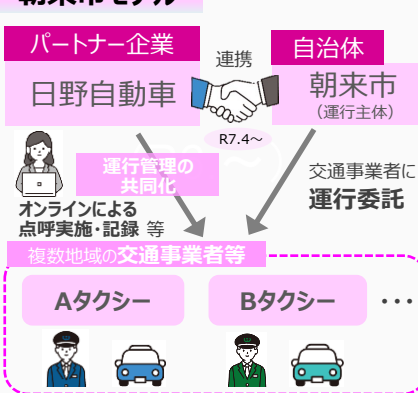
Project Members

事業主体、パートナー企業・団体、関係省庁など

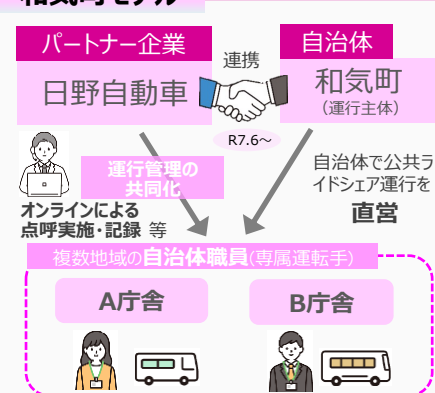
鳥取市モデル



朝来市モデル



和気町モデル



Background プロジェクト実施の背景

- 公共ライドシェアの運行に際しては、安全確保の観点から運行管理者による「運行管理業務」の実施が義務づけられているが、その要員不足等の理由により、当該業務が負担となっている。
- こうした中、業務負担の軽減や効率化に向けて、自治体内の複数地域で輸送サービス提供者が存在するケースにおいて、これらを遠隔により運行管理（例：オンライン点呼※など）を共同化する取組が始まっている。
- 今後更に、各地域の実情に応じて公共ライドシェアの運行形式が多様化していく状況に的確に対応できる「遠隔による運行管理の共同化」の取組が展開していくことが必要になっている。

※ オンライン点呼は、地域公共交通会議での承認が必要な点に留意。

Outline プロジェクト概要

多様な運行形式に対応した運行管理の共同化

- 自治体内の複数地域で遠隔による運行管理を共同化する。
更に、多様な運行形式に対応したサービスを展開する。
- 具体的には、以下の様々な運行形式に対応した公共ライドシェアにおける「遠隔による運行管理の共同化」を実施する。
 - ・鳥取県鳥取市：「地域住民ドライバー」に対する運行管理
 - ・兵庫県朝来市：「交通事業者等」に対する運行管理
 - ・岡山県和気町：「自治体職員（専属運転手）」に対する運行管理

Effect 想定される効果

- 地域の実情や運行形式に応じた「遠隔による運行管理の共同化」が可能となり、自治体や住民団体等の運行管理に係る業務負担が軽減される。また、各地域での公共ライドシェア運行の持続性が向上する。

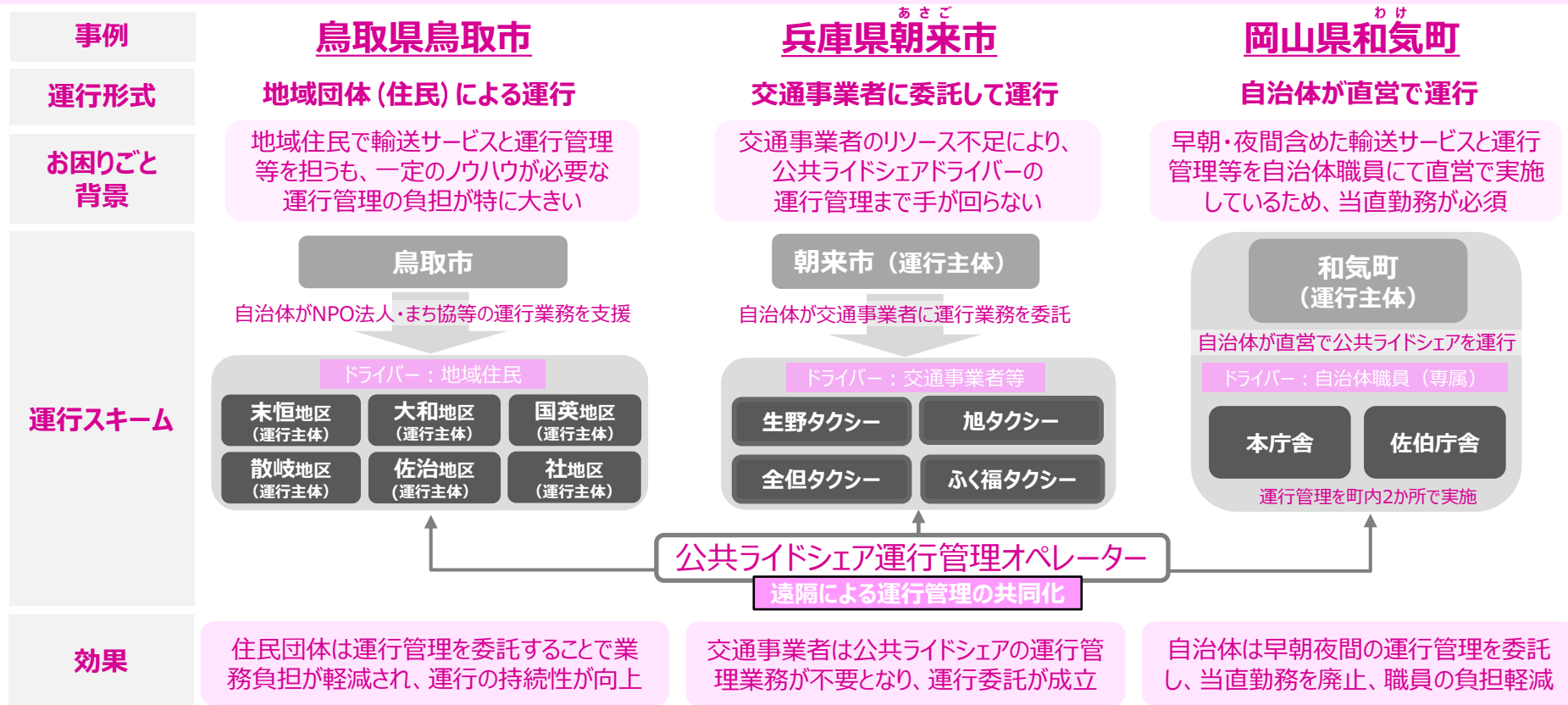
Plan 今後の展開（他地域への事業展開構想・見通し）

- 多様な「遠隔による運行管理の共同化」のノウハウを蓄積し、更に新たな運行形式に対応していくとともに、事業モデルを全国に横展開を図る。

※ R8年度 静岡市において、「鳥取市モデル」にて運行管理サービスを開始予定。

公共ライドシェアにおける運行管理の共同化 ～多様な運行形式に対応

多様な運行形式に対応した「遠隔による運行管理の共同化」を展開、業務負担の軽減に貢献



遠隔による運行管理業務の実施内容（例）

法定業務：点呼実施・記録、乗務結果記録、
運転者台帳作成、苦情・事故処理記録

その他：安全運転指導、事故発生時の対応支援 など

運行管理業務を
遠隔により共同で実施

◇ 効果

- ・ 運行管理に係る業務負担が軽減
- ・ 運行の持続性が向上

○ 遠隔による運行管理業務イメージ（例）オンライン点呼



Title 夜間の足の確保 ～データによる夜間移動需要の把握、夜間商業・観光資源との連携

Area R7年度 実証地域

北海道 苫小牧市
広島県 庄原市 等

※ 実証結果を踏まえ、次年度以降に本格的な実装を目指す取組。

Project Members 事業主体、パートナー企業・団体、関係省庁など



Background プロジェクト実施の背景

全国各地で交通事業者の運転手不足等の影響により、夜間の移動手段が不足しているため、「夜間の足」の確保が急務である。

ケース① 北海道 苫小牧市（夜間にタクシー供給不足が発生）

忘年会シーズンは、平常時よりも夜間の移動需要が増加するが、路線バス最終便は21時台である一方、運転手の高齢化等に伴い夜間の稼働タクシー台数も不足するため、飲食客等の帰宅手段の確保が課題である。

ケース② 広島県 庄原市（夜間に時間帯「交通空白」が発生）

市内のタクシー事業者が運転手不足等の影響により夜間（月～木曜午後8時以降）の運転をとりやめたため、市内では夜間に公共交通が利用困難な「時間帯による『交通空白』」が生じている。

Outline プロジェクト概要

地域の実情に即した夜間の移動手段の確保に取り組むことで、夜間の街中の賑わい創出（「ナイトタイムエコノミー」の活性化）を図る。

① 夜間バスの運行（苫小牧市：タクシー供給不足に対応）

夜間の街中が賑わう忘年会シーズンの週末に、路線バスの最終便を繰り下げて運行することで、飲食客等の帰宅手段を確保する。なお、効率的な輸送と事業採算性の両立を実現するため、不足するタクシーの補完台数や利用者の乗降データを分析した上で、市中心部から東西へ走る2路線を対象に実証運行する。

② 夜間オンデマンド交通の運行（庄原市：時間帯「交通空白」に対応）

公共交通がない夜間帯に、商工団体と飲食・観光等の関係者との連携のもと、デマンド型の公共ライドシェアを実証運行して、忘年会・新年会の帰宅手段や国営公園のイルミネーション等への移動手段を確保する。また、交通事業者の運転手不足を解消するため、市民ドライバーを活用して、必要な運転手人材を確保する。

Effect 想定される効果

- ・夜間の地域経済（「ナイトタイムエコノミー」）の活性化が誘発される。
- ・地域の実情に即した夜間の運転手不足を解消するための取組が推進されることで、夜間運行の持続性を確保する。

Plan 今後の展開（他地域への事業展開構想・見通し）

実証運行結果を踏まえて、次年度以降の本格的な実装を目指す。
同様の課題を抱える他地域に事業スキームの横展開を図る。

「交通空白」解消パイロット・プロジェクト一覧（第1弾～第6弾）

プロジェクト名		パートナー企業	実証地域	概要
01 働き手不足に負けない「強い」事業基盤の構築				
① 共同化・協業化				
①	タクシー配車業務・システムの共通化	電脳交通	全国複数箇所	地域の複数のタクシー会社の連携による一元的な配車システムの導入手法を標準化するとともに、配車アプリ-配車システム間のシステム連携仕様を標準化する。ワンストップアプリによる共同配車の先進事例を創出し、生産性向上のモデルケースとして全国展開を図る。
②	共同化・協業化による持続可能な地域交通の実現	— Community Mobility	石川県能登地域 長野県南信州圏 域内 静岡県賀茂南西 エリア 茨城県つくば市、 土浦市、下妻市、 牛久市	既存の交通モードの共同運営化（予約配車の共同化等）や広域化（自治体またぎの運行）によりスケールメリットを生かした、効率的かつ安定的な地域交通の確保に取り組む。
③	過疎地版交通マネジメント組織の立ち上げ	庄原商工会議所 順風路	広島県北部地区	過疎地版モビリティサービスの教育・安全・運行管理マネジメントシステムの開発、多様な担い手人材確保の仕組みの構築等を実施することにより、過疎地域における空白解消マネジメントシステムを確立し、マニュアル化して全国の類似地域に水平展開する。
④	官民連携による地域人材を活用した交通空白解消に向けた取組	第一交通産業 西鉄バス北九州 北九州高速鉄道 ネクスト・モビリティ 北九州市交通局 北九州タクシー協会	福岡県北九州市	交通空白地域において、鉄道や路線バスの補完として運行する小型車両による乗合交通「おでかけ交通」の担い手確保として、地域住民を活用し持続可能な交通体系を構築する。
⑤	既存地域コミュニティのフル活用でドライバー確保～「コミュニティNEO」	博報堂	富山県朝日町 奈良県おうだ （宇陀市等） 静岡県東伊豆町	既存地域コミュニティをフル活用し、より幅広い関係者の参画を得て持続的・安定的なドライバー人材確保を目指す。地域住民だけに頼らない、持続性の高い運行体制を実現する。
⑥	共助による地域交通の自立化 確立支援事業	オムロンソーシャルソリューションズ	京都府舞鶴市	「meemo」アプリや電話予約を用いて送迎マッチング・配車を行うことで、住民同士の共助による公共ライドシェアを実施する。また、R7年度には新たな「meemo」アプリの導入によるさらなる機能拡充・利便性向上に向けた取組を実施する。
⑦	公共ライドシェアにおける運行管理の共同化 ～多様な運行形式に対応（第6弾）	日野自動車	鳥取県鳥取市 兵庫県朝来市 岡山県和気町	自治体内の複数地域に存在する公共ライドシェアのドライバーに対しての遠隔による運行管理（オンライン点呼等）を共同化する。更に、各地域の実情に即して多様化する運行形式に的確に対応した運行管理サービスを展開することで、各地域における運行管理の負担軽減や運行の持続性向上を図る。

「交通空白」解消パイロット・プロジェクト一覧（第1弾～第6弾）

プロジェクト名

パートナー企業

実証地域

概要

01 働き手不足に負けない「強い」事業基盤の構築

② 標準化

⑧	バス業務の標準化推進	フューチャー アーキテクト	全国複数箇所	バス業務の標準的な業務モデルを作成し、これに基づく標準的なシステム構成やデータインターフェースの仕様を策定する。 業界と幅広く連携することで標準業務モデルのフィジビリティ向上を図るとともに、標準仕様にに基づくシステム実証を行うことで、その有用性を検証する。
⑨	ダイヤ貼替業務省力化プロジェクト	小田原機器 MaaS Tech Japan 長崎自動車	長崎県長崎市	バス車両に搭載した車載器とバス停間でデータの送受信を行うことで、ダイヤ改正や情報発信が可能なSIMレスバス停システムを開発する。 また、人流データ等を活用して最適なダイヤ改正案策定を支援するシステムを開発し、柔軟なダイヤ改正の企画と迅速な実装の双方を実現する。
⑩	QRコードによるチケット認証の標準化プロジェクト	トヨタフィナンシャル サービス 日本信号 九州旅客鉄道 九州産交バス レシップ	熊本県熊本市	鉄道・バスの各交通事業者が発行するQRコードがMaaSアプリ等を介して相互に認証できるよう、ハブシステムを開発し、そのシステムインターフェースを標準化する。

02 若者や女性に選ばれる「楽しい」地域交通

⑪	学生やスタートアップと連携した地域交通コミュニティの形成	角川アスキー総合研究所 津田塾大学	東京都、広島県、 福岡県福岡市 福井県鯖江市	「若者や女性に選ばれる「楽しい」地域交通」の実現に向け、以下の施策を実施することで、若者や女性、スタートアップなど新たなプレイヤーを巻き込んだ地域交通コミュニティを形成する。
⑫	部活動の地域展開等に向けた移動手段の確保	士別市地域公共交通 活性化協議会 合同会社まると スポーツリンクしらかわ くまがしクラブ うんぜん共創プラット フォーム	北海道士別市 長野県東御市 岐阜県白川町 奈良県平群町 長崎県雲仙市	交通事業者や教育・公共交通分野、文部科学省が連携し、平日は幼児から中学生まで、休日は全世代を対象にこども園、学校、スポーツセンター、駅、住宅を結ぶバスや乗合タクシーを実証運行する。
⑬	子育て世代が担う共助版ライドシェア/小中学生の移動手段確保	地域共創射水PF 地域公共交通鯖江 全国自治体ライド シェア連絡協議会	富山県射水市 福井県坂井市 佐賀県武雄市	地域住民や交通業者・教育・公共交通分野等が連携し、小中学生の通学等を対象に保護者による許認可不要の自家用車での互助送迎や乗合タクシー送迎、既存路線バスを活用した取組を実施する。 既存の地域交通とのネットワークなどの活用により、高齢者や学童に限定しない、地域の交通弱者が利用可能な移動の仕組み構築にも取り組む。

「交通空白」解消パイロット・プロジェクト一覧（第1弾～第6弾）

プロジェクト名		パートナー企業	実証地域	概要
03 ナショナル・リソースを活用した共創（連携・協働）の推進				
⑭	鉄道事業者等のライドシェア協力	JR東日本	千葉県南房総市、館山市	地域住民の日常の足及び観光地等における鉄道駅からの二次交通の確保について、鉄道事業者社員がドライバーに協力することで、公共RSの持続性確保・向上を図り、「地域住民の足」「観光客の足」の確保に取り組む。
⑮	施設送迎（宿泊、介護、教育）のリソースシェア	ソーシャルアクション機構	群馬県みなかみ町等 全国複数箇所	複数の施設送迎車両の運行計画立案や運行管理等を行うための共同配車管理システムを開発する。システムは施設職員等の非専門家の利用を想定し、簡易かつ直感的に利用可能なユーザー体験を提供する。 これにより、施設送迎車両による効率的な送迎や観光地への立ち寄りを可能とする。
⑯	日本版ライドシェアと貨物輸送のドライバーシェア	佐川急便 ヤマト運輸 Go	R6年度：東京都 埼玉県	ライドシェアの取組で確認されたスポット運送ワークの需要を貨物運送に展開。ラストマイル有償運送制度等を活用して、日本版RSに応募したドライバーが自家用車で荷物を運送するなど、ラストマイル運送に貢献する。
⑰	公共ライドシェアドライバーによる貨客混載事業	日本郵便 Uber Japan	R6年度：石川県 加賀市 R7年度：未定	加賀市版ライドシェアの運行主体及びアプリを提供する Uber より、ライドシェアドライバーに貨物運送への参加を呼びかける。 日本郵便がラストマイル有償運送に係る許可取得及び希望するドライバーの登録を行った上、ドライバーは旅客運送の隙間時間に日本郵便のゆうパック配達を行う。
⑱	ヘルスケアMaaSの社会実装プロジェクト	富士通	徳島県徳島市	病院予約システムと連携した「離院時間」の予測を行うことで、診察予約時に往路に加えて復路の配車予約を自動的に行うデマンドバスサービスを開発する。
⑲	介護送迎のリソースシェア×介護予防に向けた外出機会の創出	ダイハツ工業	神戸市ほか	複数の通所介護施設の送迎業務を共同化し効率化を図り、これにより、介護人材不足を解消しつつ、日中の遊休車両を利用して高齢者の外出支援を行う仕組みを構築する。
⑳	地方新聞社が主導する地域交通サービス理解・利用促進	全国地方新聞社連合会	新潟県内3カ所程度	地域メディアとして、民間企業・生活者の双方に働きかけることで、地域内における地域交通の制度の理解・利用促進を図り、持続的な事業継続につなげる。
㉑	カーシェアリングによる地域の法人車両活用プロジェクト	TRILL	長野県上田市、長野市、松本市	夜間や休日に遊休化している商用車等の法人車両を来訪者等が使用できる新たなシェアリングサービスとして、共同使用契約のスキームを活用した引き渡し・契約システムを開発。安心・安全を担保しつつ、利便性高く共同使用契約を活用したビジネスモデルを開発する。

プロジェクト名	パートナー企業	実証地域	概要
---------	---------	------	----

03 ナショナル・リソースを活用した共創（連携・協働）の推進

②	バス・鉄道事業者による日本版ライドシェアへの参画	東急バス 東京バス 全但バス いわさきコーポレーション 伊予鉄グループ	東京都内 沖縄本島内 兵庫県豊岡市竹野地域 鹿児島県指宿市、種子島町、屋久島町 愛媛県松山市、東温市、砥部町、松前町	旅客の輸送に携わる地域のバス・鉄道事業者が運行主体となり、日本版ライドシェアに参画する。バス・鉄道のダイヤに合わせた柔軟な運用に向けて、課題等を精査するため先行的なトライアルを実施する。
---	--------------------------	---	--	---

04 観光二次交通や情報発信の充実

③	改札ピッドタクシー手配	JR東日本 電脳交通	群馬県高崎市	新幹線等の予約システムとタクシー配車システムを連携させ、特急券等の購入時に特急到着駅を出発地としたタクシーを事前に予約できるサービスを実装する。改札システムと連携することで、利用者の乗車情報を取得し、予約及び配車タイミングの確定に活用する。
④	観光地におけるタクシーへのアクセス改善プロジェクト	電脳交通 JR四国 JR北海道 香川県タクシー利用 利便性向上協議会	香川県・愛媛県（予讃線等） 北海道名寄市、稚内市（宗谷本線）	二次元コードを特急列車、高速バス、旅客船の内部に設置し、到着に合わせたタクシーやAIオンデマンドバスの配車を可能とするサービスを提供する。 あわせて、観光施設や観光施設近隣の交通結節点等に二次元コードを設置し、簡易にタクシー配車を依頼するサービスを提供する。
⑤	空港から観光地への接続強化	ジョルダン、他	北海道旭川市、東神楽町等（旭川空港周辺エリア）	航空の運航状況に応じた空港発路線バスの発着時間調整やタクシー手配を実現する。
⑥	訪日外国人への「観光の足」の情報発信	ぐるなび	全国複数箇所	訪日外国人向けガイドサービスLIVEJAPANを用いて、訪日外国人旅行者が迷わず目的地に到着できるよう情報を整理した観光地やエリアにおいて、観光二次交通に関する情報を発信する。
⑦	観光と生活の足のハイブリッドの取組	—	新潟県湯沢市 長崎県佐世保市、雲仙市	地域住民や地域おこし協力隊、観光施設の従業員等の協力のもと、市街地や観光スポットを結ぶ公共ライドシェア等を実証的に導入する。

「交通空白」解消パイロット・プロジェクト一覧（第1弾～第6弾）

プロジェクト名	パートナー企業	実証地域	概要
05 喫緊の特定課題への対応			
⑳ リアルタイム相乗りタクシーマッチング	NearMe	都内複数箇所	従来、「事前予約」が原則であった「相乗りタクシー」について、リアルタイムに利用者のマッチングを行うマッチングシステムを開発する。 利用者主体の募集や、潜在利用者に対するプッシュ通知など新たなサービス体験を開発することで、相乗り利用の利便性を飛躍的に向上させ、「観光の足」確保を図る。
㉑ タクシーと公共ライドシェアの共同運営	—	富山県南砺市 石川県小松市	タクシーが提供されている地域及び時間帯においても、タクシー車両の配車が困難な場合に、公共ライドシェア車両を配車する仕組みにより、移動サービスの提供機会を増加させ、住民等が希望するタイミングで移動できる環境を構築する。
㉒ 夜間の足の確保 ～データによる夜間移動需要の把握、夜間商業・観光資源との連携（第6弾）	—	北海道苫小牧市 広島県庄原市	運転手不足等を背景として、全国各地で夜間にタクシー供給不足や時間帯「交通空白」が生じている。データによる夜間移動需要の把握や、夜間商業・観光資源との連携を図りつつ、地域の実情に即して夜間バスや公共ライドシェア等を運行し「夜間の足」を確保することで、夜間の地域経済の活性化を誘発する。

「交通空白」解消パイロット・プロジェクト公表一覧（30件）

- 第1弾（R7.3.19）：①、⑧、⑭、⑮、⑯、⑰、㉓、㉔
- 第2弾（R7.4.11）：⑱、㉕、㉖、㉗
- 第3弾（R7.5.23）：②
- 第4弾（R7.6.16）：③、④、⑨、⑩、⑪、⑲、㉘、㉙、㉚、㉛
- 第5弾（R7.8.7）：⑤、⑥、⑫、⑬、㉜
- 第6弾（R7.12.16）：⑦、㉒